

2019年度事業計画

一般財団法人日本ドッジボール協会

【課題・2018年度からの継続】

小学生競技者減少の中での、ドッジボールの価値向上への取り組み

● 国内の登録状況と方針

微減または前年度並み

- 全国大会を目指す小学生D1/D1Gチーム(750チーム)
- 全国大会を目指す中学生以上の登録競技者(1300名)

大幅増加

- 公認審判員(3900名)
- 公認準指導者(2800名)

資格取得の背景には、予選に出るための義務という消極的な理由だけでなく、選手任せにせず共に学ぶことによる目標の共有や、世代間・地域内のコミュニケーションの活性化など、より積極的な取得理由も生じてきたとも考えます。

これは、局所的には協会への問い合わせ内容の変化、大きな面では自治体との専用コート作成による全国大会5年開催誘致計画の実現からも読み取れます。

現時点では仮定の部分が多いため、2019年度からは、D2やD3カテゴリーや、会員以外からの問い合わせの傾向を分析し、接点を拡げる年と考えています。

● 海外に向けた取り組み

2018年度まで

1ボール制(Single-ball Dodgeball)の国際大会はADC加盟協会を一巡

- ・いずれも優勝または準優勝
- ・但し加盟4協会の増加には至らず

2019年度以降

World Dodgeball Association(WDA)へ正式加盟

※WDA加盟数は60カ国・地域(2019年1月時点)

大陸予選を経て、世界大会を実現しています。

8月 WDAヘッドレフェリー養成講習会実施

10月 アジア予選への選手団派遣

2019年度からは別の角度の取り組みとして、本格的に2020年の世界大会参加を目指します。同時に、Single-ballルールの普及の可能性を見定める年として、相手の文化を学びながらこちらの価値観も伝える方法を探します。

明治時代に原型が導入されて100年余り、再度大陸を超える働きかけに共感を得られるよう取り組みます。

● 全スポーツ団体共通の取り組み

暴力・暴言は決して指導の延長上にはなく、例外なく排除すべきことを繰り返し唱えるため、土台となる規程・規則の整備を進めます。一方で、すでに実施している各講習会での単元に加え、指導者資格更新講習会及び講習会テキストの充実も進め、指導者自身の不安の解決にも繋がるよう取り組みます。

上記のとおり、2019年度はいずれの分野においても、表面的な理解を超えた学習・分析が重点となる計画を立てています。

2019年度主要事業(大会関連)

他団体主催事業派遣も含まれます。

	日程	事業	場所
①	8月16～17日	WDAヘッドレフェリー養成講習会 <ul style="list-style-type: none"> ● 初開催 ● 35名取得目標 	茨城県水戸市
②	8月18日	第29回全日本ドッジボール選手権全国大会 <ul style="list-style-type: none"> ● 新カラーコート使用 ● 2023年度までの開催決定 	茨城県水戸市 ADASTRIA MITO ARENA(4月オープン)
③	10月20日	2019J.D.B.A.全日本選手権	静岡県静岡市 このはなアリーナ
④	10月26～27日	WDAアジア予選(ADF主催)選手団・審判員派遣 <ul style="list-style-type: none"> ● 初正式参加(体験会は4月より、合宿は6・9月) ● Single-ball エキシビション実施 	香港
⑤	12月1日	第6回全日本女子総合選手権	愛知県豊田市 スカイホール豊田
⑥	2020年 3月29日	第29回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会 <ul style="list-style-type: none"> ● 中国ブロック初開催 	広島県広島市 広島グリーンアリーナ

※ビーチ事業は、オリンピックに向けたお台場改修期間のため、時期・場所共に未定。ビーチ文化振興協会の動向を待って調整。

① 初のWDAルール公認審判員養成講習会は、主要な委員が集まる全国大会設営の機会を活用して行い、翌日の全国大会と合わせWDA会長を招きます。

通訳を介しても語学力の壁は避けられませんが、Single-ballで日本の審判員が培った技量は十分応用可能と判断しました。翌日の全国大会の視察と合わせることで、日本の特殊な環境への理解を促し、共に動くことがDodgeball全体の発展に繋がるとの認識を共有します。



④ Asia Dodgeball Federation (ADF) 主催によるWDAルールでのアジア予選に、選手及び審判員計50名(3カテゴリー)を派遣します。

今回は、加盟手続き・審判員講習会を経ての正式な参加となります。

- 特別参加の2017年アジア予選成績は、参加10か国4位(2018年の世界大会の招待枠は混合部門にて優勝)
- 今回もSingle-ballの模擬試合も予定されています。



スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター

補足

日本協会としての目標は、両方のルールが共に世界各国へ浸透することです。

Single-ballルールでのエキシビジョン実施と並行し、競技会の成績による露出と共に、日本に関心を持ち、一定の組織力のある国・地域を探します。

また、もし両ルールの住み分けが必要であれば、

- ・教育的な効果が見込め、国内に広く浸透しているJDBAルールはU-12世代に推奨。
- ・演出的な魅力が高く、すでに各大陸で行われているWDAルールをO-13(シニア)世代に推奨。

という組み合わせが、現状の国内普及度・海外他団体との発展的な関係構築・ドッジボール実施国増による価値の向上、という3つの要素を満たす一つの形と考えます。

②⑥夏・春の小学生全国大会は、どちらも初開催県です。

特に夏の水戸市は、茨城国体開催に合わせて建設された新体育館にて、自治体にて新たに作成のコートによる、2023年度までの複数年開催となります。初年度はさらに①のWDAヘッドレフェリー講習会と合わせることで、国内外にアピールできる機会とします。

また、春については、中国ブロック全域を通じて初開催です。会場は3日間押さえていますので、地域の普及に繋がるよう取り組みます。

	参加数	予選数	
②第29回全日本ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	ADASTRIA MITO ARENA 前年度優勝枠輩出県+1
⑥第29回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会			広島グリーンアリーナ 前年度優勝枠輩出県+1



スポーツネットワーク財団
設立2010年10月1日

③⑤女子総合選手権及び全日本選手権は、どちらも安定した開催経験を持つ東海ブロックでの開催です。女子総合選手権については、2018年度よりシニア女子の枠を4チーム増やし、参加推移を確認しています。D1/D1G卒業後の競技者の受け皿となる大会として競技を継続する価値を提供できる内容を検討します。

	参加数	予選数	
③2019J.D.B.A.全日本選手権	32チーム500名	8ブロック	
⑤第6回全日本女子総合選手権	48チーム850名	5ブロック 25都府県	シニア女子16チーム、D1G 32チーム

年間を通じた事業、複数年での事業、機会に応じて行う事業

2018年度からの継続した取り組みは次のとおりです。

・小学生向け公認球改良

公認ボールメーカー2社からのサンプルがほぼ固まり、2019年3月から6月を目途に全ブロックでの最終的な試用を開始します。

・教室派遣依頼の積極的な活用

地元の学校や自治体が主催する大会で勝ちたいなど、独自の目標に伴う依頼も徐々に出てきました。また、特に活動が停滞している協会については派遣選手と所属県協会の繋がりの強化も視野に、効率的な派遣に取り組みます。

・公認指導者資格更新講習会

準指導者資格(区分I、区分II)所有者対象の更新講習会の充実を図ります。定期的に指導者が集うことにより、特に指導者による暴力・暴言の排除の認識を徹底します。

※日本スポーツ協会(JSPO)公認指導者に対してはJSPO主催の義務研修あり

・公認指導者の中学・高校派遣の模索

限定的ですが導入を検討する意見も届いています。管轄加盟協会の意欲・体力に大きく左右されますが、他競技の指導ガイドラインも参考にしながら、分析を進めます。

専門委員会単位の定例事業／会議

各委員会から登録会員向けに行う認定会・講習会・研修会はそれぞれ、次のとおりです。

指導委員会

公認指導者講習会

集合学習④ 3会場(関東・関西・沖縄)での実施

(集合学習②ブロックまたは都道府県主催 講習会テキストセットの切り替え)

(集合学習①都道府県主催 普及委員会管轄から指導委員会管轄へ移行)

競技委員会

A級公認審判員認定会 年間を通じ、実技・面接・レポート実施

B級公認審判員認定会 9会場

主な会議体につきましては、次のとおりとなります。

理事会6回・ 評議員会2回(6月末／2月末)・ ブロック長会議 1回(2月)※

※ブロック長は定款上の専門委員または役員ではありませんが、ジュニアカテゴリーの設計など、今後の課題について、ブロック間の自主的な情報共有・制度調整の促進を目的に実施します。

ADC理事会(ADC主催・1回)

各全国大会の実行委員会・専門委員会ごとの会議と合わせて2018年度と同規模で計画しています。